

第 58 回 KTSM 実技セミナー in 兵庫 基礎コース

開催概要報告

会期:平成 29 年 12 月 2 日(土曜日) 12:30~16:30

会場:神戸医師会看護学校

(兵庫県神戸市西区学園西町 4 丁目2)

受講者:40 名

参加費:会員 7,000 円 非会員 11,000 円

主催:NPO 法人口から食べる幸せを守る会[®]

● 目的

高齢化に伴い、複数の原因による摂食嚥下障害を有する高齢者が多くなり、医療・介護・福祉での食事ケアの充実、技術の向上が必要とされている。今回、食事支援に必要なとなる、安全安楽なポジショニング、早期経口摂取につなげるベッドサイドスクリーニング評価、安全で効率的、自立を目指した食事介助など、食支援スキルの習得を目的とする。また、食べ続けることができる社会をつくるためには、食支援スキルに加え、包括的視点での食支援が重要となる。食支援スキルに加え、KTBC の活用方法について学び、食べる幸せを守るができる社会を目指し実技セミナーを開催した。

● プログラム概要

1. 口から食べることをサポートするための包括的スキル～KT バランスチャートの活用と支援～【講義:50 分】
2. 食事介助に必要なポジショニング
早期経口摂取に向けたベッドサイドスクリーニング評価【演習:50 分】
3. 安全で効率的な食事介助(ベッド上での食事介助)【演習:60 分】
4. 自立を目指した食事介助(車いすでの食事姿勢、セルフケア拡大へのアシスト)【演習:30 分】
5. まとめ・質疑応答【20 分】

● 担当講師およびアドバイザー

敬称略

氏名	所属	職種(摂食嚥下に関する資格)
小山 珠美 (神奈川県)	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事長	看護師 ・KTSM 実技認定者 ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会学会認定士
竹市 美加 (兵庫県)	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 副理事長 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	看護師 ・KTSM 実技認定者 ・摂食嚥下障害看護認定看護師
一瀬 浩隆 (愛知県)	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事 あい訪問歯科クリニック	歯科医師 ・KTSM 実技認定者 ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会学会認定士
近藤 泰子 (広島県)	県立広島病院	看護師 ・KTSM 実技認定者 ・摂食嚥下障害看護認定看護師
山廣 芳枝 (大阪府)	大阪府済生会中津病院	看護師 ・KTSM 実技認定者 ・摂食嚥下障害看護認定看護師
宮田 栄里子 (和歌山県)	紀南病院	看護師 ・KTSM 実技認定者 ・摂食嚥下障害看護認定看護師
井上 久美子 (大阪府)	大野記念病院	管理栄養士 ・KTSM 実技認定者
高橋 瑞保 (山形県)	山形県立中央病院	管理栄養士 ・KTSM 実技認定者
居出 香 (京都府)	日本パプテスト病院	管理栄養士 ・KTSM 実技認定者

● サポーター

敬称略

氏名	所属
三木 貴子	ナチュラルスマイル西宮北口歯科 歯科衛生士
三木 悦子	ナチュラルスマイル西宮北口歯科 事務
朴 あみ	ナチュラルスマイル西宮北口歯科 歯科衛生士

● 研修会風景

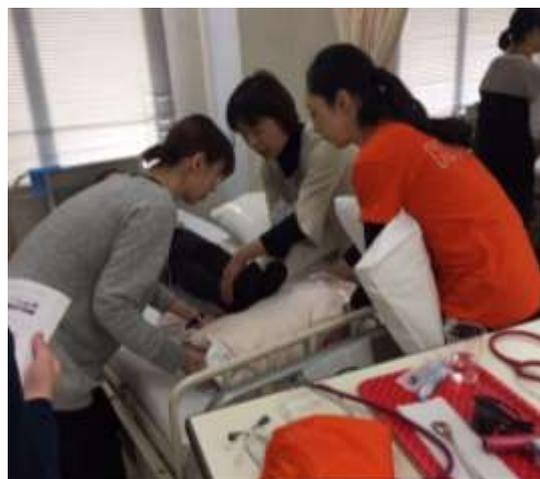
＜演習＞

☆ポジショニング・ベッドサイドスクリーニング評価

安全に美味しく食べるためには、まず安定姿勢から！安楽で飲み込みやすい姿勢の調整について演習を行いました。不良姿勢も一緒に体験してもらうことで、適切な姿勢を調整することの重要性を体感してもらいました。



ベッドを上げる前に、体幹をサポートすることで頭側挙上時の姿勢の崩れ、不安の軽減をはかります



ベッド上でも、足底を安定！バスタオルやクッションを利用して、足底安定し姿勢の安定につなげます

早期経口摂取につなげるための、ベッドサイドスクリーニング評価スキルを学びました。ゼリーなど評価食材の見せ方、端的で必要最小限の声かけ、スプーンの方法、頸部聴診法について、実践しながら学びました。

段階的のステップアップ評価についても取り入れ、対象の持つ力を最大限に引き出し、良い結果につなげていく評価方法について学びました。



手添えで指導を行い、適切なスプーン操作を習得します



視覚情報の提供により、食物認知を高めます。ちゃんと見えているか、患者の視線を確認します

☆安全で効率的な食事介助(ベッド上での食事介助)

安全に効率的に介助するための、ポジショニング、テーブルの位置や高さ、スプーン操作、介助ペースなどを学びました。スプーン操作では、介助される対象が“自分で食べるように”“食べやすい”介助を、体験を通して学び、スプーン操作によって口腔内の残留や口のためこみなどの症状につながる可能性があると感じていただきました。



ゼリーのすくい方から、“自分で食べる”を意識して介助。タオルを使って、お盆も見えやすいように工夫します



患者役からフィードバックしてもらい、みんなでスプーンの入る位置や角度での違いを共有します

☆自立を目指した食事介助(車いすでの食事姿勢、セルフケア拡大へのアシスト)

車いすでの姿勢調整(シーティング)を体験。車いすでは食べにくく、バスタオルなどを使って座面などを調整するだけで、姿勢が安定し食べやすくなることを体験してもらい、シーティングの重要性を体感してもらいました。

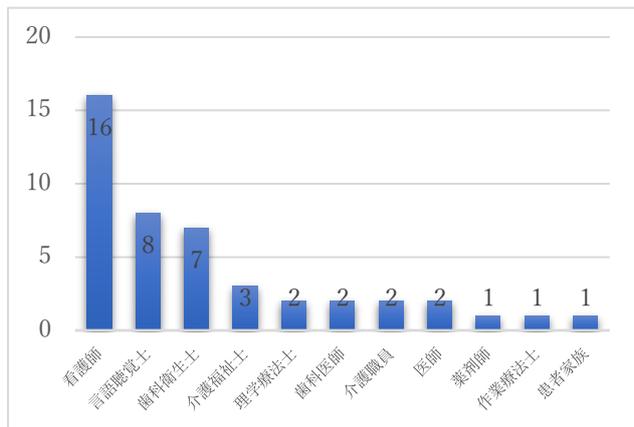
姿勢に合わせて、食事動作も自立を目指したアシストを学び、セルフケア拡大につなげます。できないところとできるところを評価し、できないところをサポートしながら、自立につなげていきます。



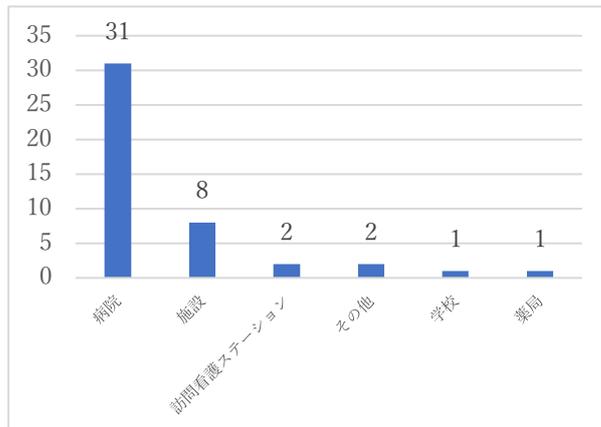
安定した姿勢を調整することで、食事動作の自立につながります。肘をついた状態で捕食すると、姿勢も崩れにくい！

● 参加者の属性

職種

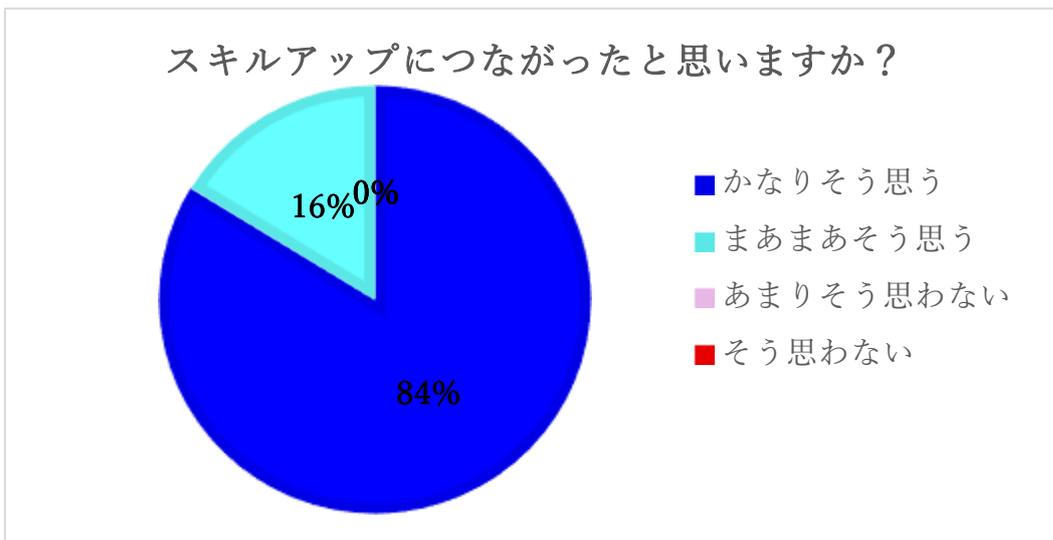


勤務先



● アンケート結果

1. 本日のセミナーの内容は、ご自身の口から食べる技術に関するスキルアップにつながったと思いますか。



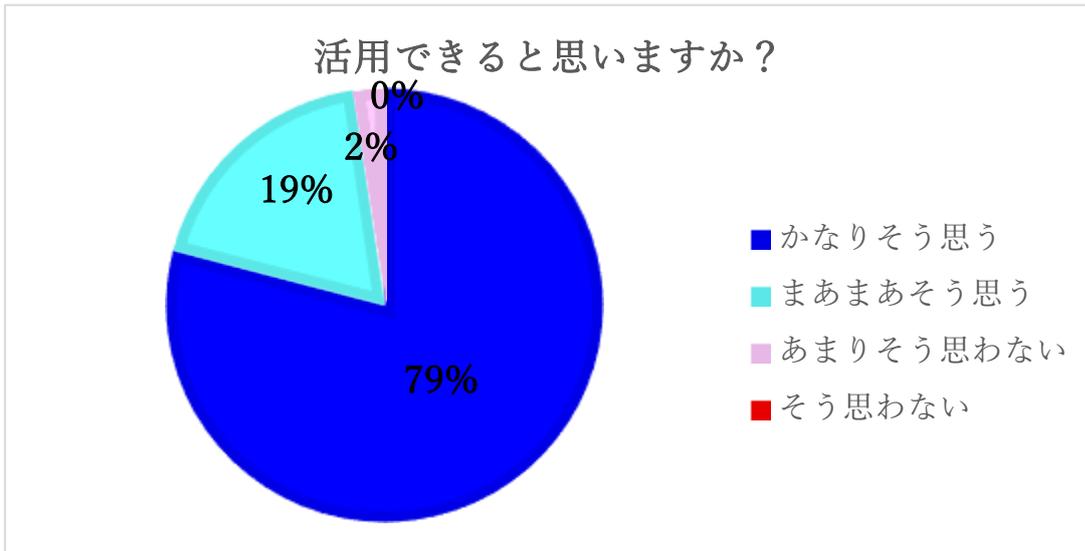
- ・ポジショニングで、どこを支えたらいいのか分かった。
- ・食事介助のスプーン操作方法はもちろんのこと、食前のポジショニング、食べ物のおいしさをかいてもらう、食べ物を見てもらうなども大切だということに改めて感じ、食べてもらうためには実際にどういう環境が必要かを学べて勉強になった。
- ・普段実践していることの裏づけになることもあり、新たにご指導頂いたこともあり良かったです。
- ・患者役になり、対象者に圧迫感を与えていたことに気づいた。
- ・経験を積んでいきたい。
- ・食べさせてもらうことから恐怖があることを知った。患者さんに、不安・緊張を与え

ていないか見直すいい機会を頂きました。

- ・明日から臨床に活かすことができそうです。
- ・本を見ることではわからない技術を学ぶことができました。
- ・患者さんの視点で見れてなかったことを実感しました。
- ・体が斜めのまま食事をしているのをよく見かけるので、正しいポジショニングにはどこに気を付ければよいかわかった。食事介助は職種的にやらないが、患者さんの姿勢を正して周ろうと思った。
- ・もっと練習し、勉強したいと思います。
- ・口腔ケアを甘く見ていた。
- ・実際に体験出来てよかった。
- ・体験と経験が出来て、今後いろいろと考える機会になったと思う。
- ・患者様の立場を考えた介助方法を学べた。
- ・わかっているようで、深くわかってないことが多かったです。水飲みテストにしても少し間違った部分もあったので、ここで実践できてよかったです。
- ・一つ一つのことに意味があり、勉強になりました。
- ・自主練あるのみです。
- ・グループワークを通して丁寧に指導して下さったので、明日からの実践につながられると思います。
- ・自分で介助している姿を評価して頂き嬉しかったです。指導してもらった点を、明日から生かして介助したいです。
- ・曖昧であった部分が、理論も一緒に教えて頂けたので勉強になりました。なぜ必要なのかわかりました。
- ・介助者中心の援助をしていたことに気づきました。相手の目線でセッティングもポジショニングもしなければならなかった。
- ・初めて知ることばかりでした。
- ・講師と参加者と両方に介助してもらい食事を食べましたが、その違いに驚きました。
- ・嚥下の評価のみに着目していて、そのほかのことはきちんとできていなかった。
- ・自分のスキルが未熟であることを痛感した。
- ・スプーン操作を細かく学べた。
- ・患者様の全体像を診る重要性を知った。嚥下のみでなく、強みと弱みを見つけていきたい。
- ・根拠もくわしく説明してもらえたので理解できました。

2. 本日の実技セミナーは、今後の実践の場面で活用することができると思いますか。

活用できる場合はどんな場面で活用出来るか具体的にご記入ください。活用できない場合の理由もお願いします。

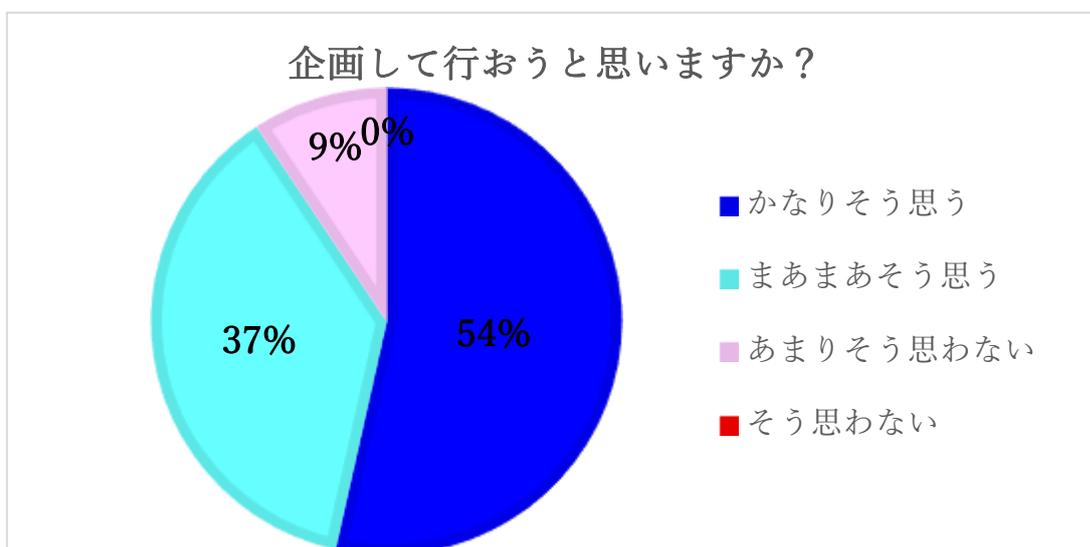


- ・ KT バランスチャートに関しては、介護の世界では、地域の Dr、訪問 NS、他いろいろな職種の方の理解と協力が必要なので、受け入れが難しそう。まず。私自信が評価して、問題点を正確に把握していきたい。
- ・ 食事時のムセを軽減できるのかなと思いました。
- ・ 食事介助時のスプーンの運び方、スピードや角度がとても勉強になりました。
- ・ 重度認知症の方、進行性疾患の方も、摂食をあきらめない病院の意識統一を目指したい。
- ・ 車いすのポジショニングのバスタオルの使用方法がよくわかった。
- ・ すべてのポジショニング、スプーン操作。
- ・ 食事開始や形態 UP、介助時の介入の立ち位置など、今後の嚥下訓練に活かせると考えた。
- ・ 認知機能の面で低下がある方に自分がどこまで対応できるのか、まだ不安があるのでもっと学びたい。
- ・ 家族や患者さんに対して今日の実技を活用したい。
- ・ ベッド上での食事介助、車いすでのポジショニングから介助、すべての場面において活用できます。
- ・ 17 名の入居者様のうち、2 名が胃婁、3 名が食事介助、2 名がムセが多い方と食事に問題のある方がいます。姿勢だけでも多く改善できるかと思います。
- ・ ポジショニングのポイントをスタッフへも伝えていける。
- ・ 担当患者さんだけでなく、本日の気づきを多職種と共通理解させていきたい。
- ・ 実際に出されているプリン食を食べてみないといけないなと思いました。
- ・ ポジショニングでよい姿勢を調整し、口から安全に食べることにつなげていくことや、食事介助時のスプーン操作が今後の実践の場面で活用が出来ると思いました。
- ・ 母親には間に合いませんでしたが、父親も高齢で食べる意欲が落ちているので、意欲をこちらが高め、食べる力まで落ちないようにしたいです。
- ・ 肩と肘の高さはどの場面でも調整できるので、まずは姿勢を整えるところから行っていこ

うと思います。バランスチャートも全患者とは言わないですが、少しずつ評価できればと思います。

- ・摂取困難な方へのアプローチ方法。
- ・直接訓練や、食事評価に活用していきます。
- ・経口摂取が困難な方に支援をする際に活用したいです。
- ・開業医で、現在は訪問診療に行っていないので、今後仕事として活用できるよう学んでいきたいです。
- ・現場での食事介助、ご家族への指導。
- ・姿勢が大切で、食べる能力があるのに不適切なケアをして妨げになっている。
- ・歯科衛生士なので、実践できる職場環境でないの、なかなか活用できることは少ないと思います。
- ・姿勢等気を付けることで、より美味しく、より食べやすく食事介助が行えるのではないかと思います。
- ・入居者さんの口腔ケア時に、本日教えて頂いたポジショニングを活用できそう。
- ・昼食時に患者さんを車椅子に移乗させる際のポジショニングが今までしっくりこなかったが、柔軟性をもった考えが必要何んだと気づきました。
- ・食事介助場面で活用できそうです。また、職員への正しい食事介助の方法を伝えることができそうです。
- ・Best positioning is best swallowing を実感しました。病院については様々な体幹により崩れた姿勢の患者さんがいるので、応用していきたいです。
- ・食事介助をする際にどんどん試していきたいです。

3. 本日の実技セミナーのような研修をご自身の病院、施設、地域で自ら企画して行おうと思いますか。



- ・まだ人に指導できる立場ではないので、これから勉強し経験したうえで出来るならしてみたいです。
- ・まだ自信がない。まずは自分で考えてみたい。
- ・ポジショニング。
- ・まだまだNS,DR,栄養士に意識の差（特にポジショニング）があるのでこら辺を理解させるのには溜息が出ます。
- ・内部研修があるので、食事介助の方法を正しく伝えることができればいいなと思います。
- ・自分の中で習得できれば自身を持って行っていきたいです。
- ・ポジショニングがいかに大事かを知ってもらう企画をしたいと思います。
- ・自分行っている施設に行きたい。
- ・同職種のスタッフ間での技術共有の為の勉強会。
- ・まず自分の勉強を優先します。
- ・病院・地域の介護スタッフに対し、伝達講習を行う。
- ・食べられないという意識を変えたいです。
- ・施設のスタッフは知っておくべきだと思う。
- ・呼吸器内科なので、誤嚥性肺炎肺炎の方は多く診ています。「経口摂取を再開したらまた誤嚥して、結局あきらめた」という事例は多いですので、病棟で姿勢の取り方などを広めていきたいです。
- ・まずポジショニングからきちんと病院内の研修を行っていきたいと思います。
- ・さっそく実技の研修会をします。リハビリスタッフの食事への取り組みをもっと重視させたいです。
- ・勤務時間以外の時間を利用した自主開催をしたいと思います。
- ・上層部上司への報告を受け入れてもらえるように自分のスキルを高めて認めてもらいたいです。
- ・説明に不安がありますが、頑張ってみようと思います。
- ・医師会、薬剤師会、地域包括等の連携会議等の場で、在宅患者の栄養サポートの提案をしたいと思う。
- ・不適切な介助方法で行われているので、実技セミナーのような研修が必要かと考える。
- ・摂食嚥下セミナーを1回/年実施しているので、取り組みたいと思う。
- ・未経験者も多く入職してきているので、報告して広く広めたい。

4. 「口から食べる」 ことに関する内容で、今後の実技セミナーで取り上げてもらいたい内容があればご記入ください。

- ・体の緊張がある方のほぐし方。安楽なポジショニング。
- ・口腔ケアの方法について知りたいです。
- ・「口から食べる」大切さを病院でお話して頂きたい気持ちになりました。

- ・寝たきりの人の適切なエネルギー量を知りたい。
- ・拘縮のある方か、精神疾患のある方、認知機能が落ちてしまった方に対する技術。
- ・経鼻や胃婁に傾く病院体制に、嚥下訓練を取り入れてもらうような意識の変革、社会、医療制度の変革を実際に行う方法。
- ・形態を上げるタイミングの判断に迷います。ポジショニングの事例をもっと勉強したいです。
- ・いろいろなケースの事例、スキルアップのための共有など。
- ・拘縮の強い方、円背の方の食事ポジショニングなど。
- ・在宅や施設での嚥下食の作り方について知りたい。酵素処理について。低栄養の方への対応。頸部伸展位が重度の方への対策。
- ・ターミナルで食べられないのか、その見極めがわからない。
- ・食形態をどのタイミングで上げていくかなどお願いしたい。
- ・ガンや糖尿病患者に対しての「味」に関して取り上げてほしい。
- ・義歯の有無で食べることにする違い、介助方法の違いがあるのか教えてほしい。



ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

学びを実践し、全ての人の食べる幸せをまもることがで

きるように、頑張っていきましょう！